



114  
A 125  
17



第二百八十五号

千八百七十四年十月十七日「ジャパニ、ウ井」  
 一ツクリ、メー「ル」新聞抄訳  
 記スル臺灣ノ諸学士及ヒ人民ノ揚送ト題  
 スル譯文ハ頗ル奇ニシテ注意スルニ足ル者ヲ  
 リ蓋シ其文ハ亜細亞流ノ浮文高言ヲ載スル甚  
 タ多シト雖モ熟々之ヲ考フルニ此癖ハ獨リ亞  
 細亞ノニニ止マラス歐土ト雖モ亦之ヲ免レテ  
 ルヲ知ル可シ而シテ右譯文ノ最モ著シキハ支那  
 人ト日本人トハ其人種頗ル互ニ相惡ムノ情ア

大正十一年四月  
 隈侯爵邸奇題





ルヲ示シ且、此兩國ノ交戦ニ及フ時ハ臺灣ノ  
人民日本人ニ敵スヘキヲ示スヨシ在リテ蓋シ  
支那ノ郷勇兵ハ堂々、軍ニハ熱セサレテ撤兵  
トシテ用アル時ハ頗ル良兵タルニ目リ日本人  
ノ為メ、ハ一箇ノ大害ヲ増スニ至ル可シ又文  
中日本賊徒ノ事ヲ言フハ甚々明カナラサレテ  
多分佐賀ノ一揆党中ニテ後ニ征臺ノ兵ヲ編  
入セラレシ者ヲ指シ云フナル可ク而シテ掃入  
ニ向ヒ無禮ヲ為セシト云ヘルハ去ル水曜日ノ  
我々局日刊新聞ニ載セシ書翰ニ記セシ者ナリ

臺灣

臺灣ノ諸学士及人民ノ掲紙

(譯文)

左ニ記スル所ハ余等カ説ヲ公告スル者トス  
安シスレニ臺灣全島ハ二百餘年前ヨリ常ニ支那  
ノ全圖中ニ入りテ我々朝ノ皇ニ仰刑ヲ寛ニシ稅  
ヲ薄ウシタルニ因リ四民皆幸福安寧ナルヲ得  
タリ  
丘後ノ生蕃ハ高ク山上ニ住シ或ハ低ク地中ニ



穴居シテ人情ヲ覺ユルナシト雖モ往キニ生  
蕃ヲ変シテ熟蕃ト為シ熟蕃ヲ變シテ王民ト為  
シタルハ今日ノ王民即チ昔日ノ生蕃タリ  
生蕃若シ人ヲ殺サハ皇朝自カ之ヲ齊懲ス丁  
ク取テ他國人ノ來テ之ニ干涉スルノ要ナシ然  
ルニ日本人ハ心ニ惡意ヲ懷キ此豊饒ノ地ヲ見  
テ允ツ生蕃ト條約ヲ結フヲ乞ヒ其密計ヲ定メ  
タル後衣服ヲ變シテ西洋人ヲ模擬シ以テ  
ヲ威嚇セトス然ルモ琉球ノ漂民牡丹生蕃ノ  
為メ殺害セラレタルニ因リ日本人之ヲ名トシ

テ兵ヲ出シ條約ニ反キテ濫リニ家ヲ燒キ人ヲ  
殺シ村落ヲ破壊シ終ニ耶琦ニ兵士植民地ヲ設  
ケ陣營ヲ造リ道路ヲ開キ永ク其地ニ據ラント  
欲

嘗テ聞ク日本人ノ總理衙門ニ於テ為セシ口上  
ノ契約ニテハ南方ノ生蕃ヲテ向後漂流人ヲ  
殺害スルナカラシムル為メ共生蕃ニ人ヲ遣  
ハス可キ旨ヲ定メタルニ戰鬪殺傷ノ事ハ敢テ  
之ヲ言ハス然ルニ今ニ至リ日本人ハ其自カラ  
生蕃ヲ殺戮スルヲ嘗テ支那ノ承諾セシ旨ヲ云



と又日本人ハ其上海ニル領事官ヲシテナ  
シ、チユ、チン及、其他日本人十一名ノ路票ヲ得  
セシメタルニ因リ此数名臺灣全地ヲ旅行セシ  
モ余等カ疑念ヲ生マシムルヲナカリシ又其後  
日本人支那ニ書ヲ贈リキア、テ、シ、ン、ピ、ン  
新平及、其他ノ日本賊徒ヲ捕フルヲ乞ヒシカ  
此後ニ因テ日本ヨリ侵攻ノ兵ヲ發セシ時余等  
之ヲ防クノ備ヲ為スヲナシ、實ニ日本人、其詐  
偽數回ヲ以テ余等ト通信スル各國皆之ヲ同等  
ノ國トシテ認ムルヲナシ

初メ日本人ノ臺灣ニ來リシ後甘言ヲ用ヒ大金  
ヲ賄シテ近傍ノ民ヲ欺キ之ヲ懐ケシカ五月ニ  
至リ日本ノ兵士故ナクシテチヤイ、チエ、ニ屬  
スルア、ン、ウ、エ、ン、チユト云ヘル者ヲ斂殺シ日  
本人ニシ、ン、チ、エ、ー、ノ、シ、ン、シ、ユ、ニ、舖店所属チヤン、  
ウ、ン、チ、エ、ン、ノ、妻、ヤ、ン、ナル者ニ藏レケレハ其  
女ノ叔父チヤン、サイ、セン、之ヲ論シテ止メシ  
日本人一名其刀ヲ以テ切掛ケテリ此ニ於テ其  
地ノ人民大ニ以テ石ヲ擲テ日本人ヲ捕ヘテト  
セシカ、本人之ヲ見テ遁レ去リ、因テ其事情



ヲ日本都督ニ訴ヘタル都督敢テ之ヲ顧ニス  
刺ヘ日本人軀体ニテ人民ノ住家ニ入り之ヲ苦  
ムル状言詞ニ盡クシ難シ故ニチアイ、チエン及  
ヒシニ、チエンノ人民ハ互ニ協議シテ何人ニ附  
テス日本兵ノ為メ労働シ又ハ日本人ト接スル  
ヲ禁シタリシカ日本人ノ暴猛無禮ヲ数フルノ  
難キハ毛髮ヲ算スルヨリモ更ニ大ナリ折余等  
臺灣ノ学士及ヒ人民ハ皆其地ノ果實ヲ食ヒ其  
土ヲ踏ム者ハ苟ニ生活シテ呼吸スル者誰  
レカ其主ヲ知ラス其族ヲ愛セサランヤ如何シ

テ外國剽奪人ノ來テ此暴行ヲ為スヲ容ルヌ可  
ケンヤ各人須ラク奮戦力闘ニテ自カラ之ヲ防  
グヘク日本人若シ進撃ヲ始ムレハ我ハ郷勇隊  
伍ヲ為シテ兵器ヲ取り四方ヨリ齊ニク鯨波ヲ  
發シテ敵ヲ追ヒ縱令一物小片タリモ我カ地ヨ  
リ之ヲ奪去ルヲ防キ敢テ再ハ臺灣ヲ見ル能ハ  
サラシム可ク然ラハ即チ我カ身ト我カ家ヲ復  
シ亦能ク我皇帝ノ國ヲ守ルヲ得可シ然ルニ  
若シ密カニ日本人ト通シテ之ヲ助ケ其金ヲ得  
テ之ヲ江一或ハ國ニテスヲ日本人ニ我カ秘密ヲ



洩ラス者アラハ忽々之ヲ捕ヘニ官吏ニ交附シ  
至當ノ責罰ハ受ケシム可ク又既ニ日本人ニ仕  
ヘシ者ト雖モ速クニ歸來セハ之レカ罪ヲ赦ス  
可ク若シ此約ニ背ク者アラハ神人共ニ之ヲ滅  
滅ス可シ是レ余等カ共ニ普ク其意ヲ表スル所  
ナリ

千八百七十四年九月臺灣ニ於テ

箕作權大内史 譯